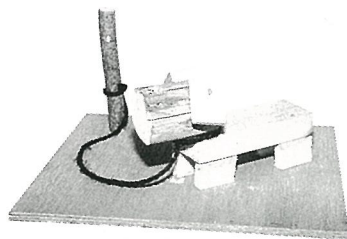


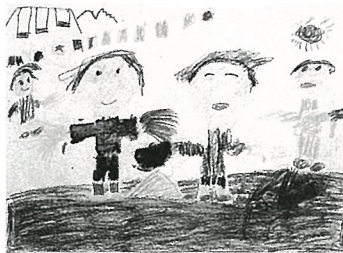


4年 石毛 千尋さん

※顔の部分をのこぎりで切るのが大変でした。耳が上手につけられたと思います。



『犬のアッキー』



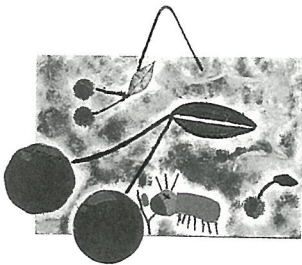
『たのしかった うんどうかい』



1年 日敷 尚弥くん

※ポンポンを持って楽しくおどったところを絵にかきました。

あつまれ みんなの 力作



『さくらんぼ』



5年 齊藤 綾瀬さん

※板を鋸で切ったり、彫刻刀でほったりが大変でした。枝やフェルトも使いました。



2年 土屋 隆香くん

※ちよんまげをつけたり、目をくりくりにして、おもしろいかにしました。



『おじさんぼうし』

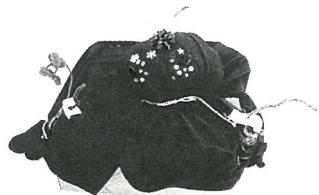


6年 久保田 潤くん

※もちもちの木に灯がともったところを布で作ったスタンブで表現してみました。



『もちもちの木』



『はこ宇宙人』



3年 伊橋 佑哉くん

※赤いぬのに合わせて、目のまわりのメイクを工夫しました。きれいにできました。



ひかり俳壇

仁王尊口をむんずと冬来る 布施 和代 (二又)

「呼形」の形相を豊かな感性が捉えた。中七の叙詩が血脈を与え生き生きと迫る

立冬や山里深し五六軒 川島 孝夫 (二又)

大自然の威の前に過す山里の情景を写實的に詠んだ。素材は異つても蕪村の作風に通じる

「退院」と声弾ませて菊日和 山崎 てい (二又)

退院を告げる電話の生々生きと弾んでいた。折柄の菊日和に何よりの送り物と心安らく

立冬やわが晩年の坂多く 鈴木とし子 (宝米)

杖一つまじる立冬竹馬会 大木 素風 (二又)

肩にせぬ天秤納屋に冬来る 川島 重一 (尾垂)

丸々着て老をかせぬ今朝の冬 伊藤 幸枝 (尾垂)

日溜りに孫と戯れ今日の幸 伊藤 雅子 (尾垂)

評者吟 杖の身となりて迎える今朝の冬 椎名しげる